磁津通信

磁津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磁津南町2839
野田之一さん気付

たのむにこらえて

患者さんたちの今

先日、一つの家庭で複数の認定患者を抱えてみえる磁津のＳさん宅に何度目かの訪問をしました。数ヶ月前にお邪魔して玄関の戸越に「お話を聞かせて下さい」とお願いし、ここ2，3ヶ月磁津通信をポスティングしてきました。

今回お顔だけでも拝見したいと思いましたが、今回も戸越に「たのむでこらえて」と聞こえました。（もう、お話しすることはないし、身体もえらいので、インタビューなんて）「たのむで勘弁して」ということだと思います。

磁津で今も公害で苦しむ人は100人（野田さん弁）はいると思います。しかし、３年磁津に通って私が話ができたのは７軒そこそこ。なんと言うことでしょう。それは磁津と今の四日市の公害患者さんを象徴する状況に思います。

6.6～東京総行動

Ｐ2～４に最近の公害補償をつぶす動きを載せましたが、公害はなくなってないし、患者は今も苦しみ、四日市では身を潜めて生きてみえます。

来月６日からの「公害総行動デー」に私も参加してこようと思います。環境大臣交渉、デモ、総決起集会、早朝宣伝、東電前行動、企業交渉など全国のみなさんの闘いに学んで来ようと思います。

居るだけであまり役に立ちませんし、四日市からはひょっとしたら私だけかも知れません。６月の小遣いは飛んでいきそうですが、それに代わるきっと何かが私の中に吹き込んでくると信じて…。

磁津の漁業の明日

先日も伊十六さんにたくさんのコウナゴを頂いて近所や知人に配り歩いて、唐揚げにしておいしかったよと喜ばれたのですが、その「大宝丸」の第一代の貴重な写真に出会いました（P5）。何か、船にも人びとにも勢いがあるように思います。船としては今の方が装備も性能もいいのでしょうが、みなさん今より３０～４０は若い。これから、10年たった磁津で、朝4:00に出港していく船は何艘あるでしょうか。

磁津の漁業の衰退はここが「四日市漁協」の本体そのものですから、四日市から漁業が消えることになります。四日市はコンビナートの街だから漁民は要らない？そんなバカな。数年前、同じコンビナートの街岡山県倉敷を訪ねたときは漁民はお一人でした。まだ、打つ手はある、それをここ磁津でこれから聞いて行きたいと思います。

心繋いでいた鯨船

「磁津の鯨船は一番」だと言います。身びいきかもかも知れませんし、他の地域のみなさんには大変失礼ですが、（ビデオで見る限り）磁津の鯨や踊り子、船の演技はダイナミックで勇壮。確かに一番です。

せめて静かにでも引いたり、人が足りないなら女性の力を借りたらなんて言おうものなら誰からもそんなの磁津の鯨船じゃねえと言う声が返ってきます。プライドもあり、運行当時は町が一つになっていたのです。人びとの中につながりができ、若者を育て子どもを育てる儀式や雰囲気が自然とあったのです。

それが奪われていったのは、実は磁津だけではなく、日本全体のことでした。それを取り戻すのは日本の文化と地域のコミュニティの復権を考えることだと私は思っています。

《　連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磁津環境学校情報室　》